
いつだったのか、忘れるくらい君が好きで。

サークルO.L.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつだったのか、忘れるくらい君が好きで。

【Nコード】

N6256Z

【作者名】

サークルO・L・

【あらすじ】

タイトルが本編で、内容は詩である。

君を好きになったのはいつなのか？（前書き）

タイトルが本題で、お送りするのは尖角です。

君を好きになったのはいつなのか？

悲しいかな、今日も俺は独りに耐えて生きている。

苦しいかな、友達も彼女もいないただ一人の孤独の生活は。

嬉しいかな、誰にも知らずに死ねるたった一つの喜びは。

俺は涙を流さない。

涙というものはとつくの昔に枯れてしまったのだから。

大好きなんて言葉にはとつくに飽きてしまったのだ。

伝えることができない、たった一人の俺にのしかかる重圧。

そこにあるのは空虚な生活。

悲しみも、怒りも、喜びも、楽しみも、愛も、何も、そこにはない。

俺が君から奪った幸せは、俺から君というものを奪った。

それは、昨日の話だったのか？

それとも、数年前の過去の話なのか？

それとも、俺が生まれるずっと前の話だったのか？

俺はたった一人の孤独な悪魔。

俺に涙なんてものはいらぬ。

その涙を映すものは無く、誰も拭ってなぐれないのだから。

自分で拭うことなんてできないよ。

「君を抱きたい」というために腕を切り落としたから。

君に近づくことなんてできないよ。

その欲望を鎮めるために足を切り落としたのだから。

君の鼓動を知ることができないよ。

君にしたように、僕の胸にも穴をあけたのだから。

大好きだったんだ。この世の中で最も。

だけど、俺は罪深き罪人。

君に愛の生き死にを教えることなどできないのだ。

所詮、俺は生けとし死せるもの。

何もそこにはありはしない。

ただ、そこにあるのはたった一人の虚しき存在。

俺はふと、記憶の奥底を探ってみる。

夢か現か、幻か？

涙の意味は何なのか？

苦しいとは何なのか？

君というものは何なのか？

嬉しさは所々で俺に話しかける。

「君は今、幸せですか？」

「いいや、別に？」 俺は答える。

寂しさは俺に話を振ろうとする。

「君は一人でもいいのかい？」

「ああ、寂しくはないよ、、、、」

悲しさは俺に言葉を投げかける。

「君は一体、何がしたい？」

「それは、ただただ死にたいだけだ・・・」

君は俺に言うのである。

「あなたは良い人」

じゃあ、なぜこんなことになるのか？

俺には意味が分からない。

愛が愛で無くなった時、それは一体何になると思う？

それはゾンビさ、寂しさゆえの一人の人生。

そうだ、俺は無意味に生きるだけ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6256z/>

いつだったのか、忘れるくらい君が好きで。

2011年12月20日22時46分発行